

都市再生整備計画(第3回変更)

輪島中央(第2期)地区
(地方再生コンパクトシティ)

石川県 輪島市

平成30年3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	石川県	市町村名	わじまし 輪島市	地区名	わじまちゅうおうちく 輪島中央地区(2期)(都市再構築戦略事業)	面積	150	ha							
計画期間	平成	30	年度	～	平成	32	年度	交付期間	平成	30	年度	～	平成	32	年度

目標

- ・中心市街地の賑わいの再生、地元商店街の活性化
- ・中心市街地の利便性の向上を図ることで、人口減少の抑制
- ・地域の活性化を図ることで、地域の地価公示価格の下落率を抑制
- ・中心市街地の賑わいの再生、回遊ルートの魅力向上に伴う地元商店街の活性化

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

都市全体の再構築方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための再構築方針)

本市では、深刻な少子高齢化や過疎化、経済活動の停滞に加え、平成13年の「のと鉄道」の廃止、平成19年の「能登半島地震」による被災等の影響により、市街地を中心に都市機能や地域活力が低下傾向にある。

一方で、市内には、輪島朝市や輪島塗、平成23年に世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」を象徴する「白米の千枚田」や平成27年に日本遺産に認定された「能登のキリコ祭り」をはじめとする、歴史や自然をテーマとした豊富な観光資源が多く見られるほか、平成15年に「能登空港」、平成22年に「マリンタウン旅客船岸壁」が供用し、現在は「能越自動車道」の整備が進められている。

こうしたことから、市内の人口集中地区を「中心拠点区域」に位置づけ、バスターミナルやバス停周辺における各種施設整備を実施し、公共交通とのアクセスを高めることにより、市民生活における利便性の向上を図るとともに、豊富な観光資源を周遊するため周辺道路を整備し、地区内の回遊性を向上することにより、交流人口の拡大、さらには地域経済の活性化を図る。

また、移転を予定している保育所(社会福祉法人所有)をバスターミナルと隣接した旧商業施設跡地へ誘導するとともに市街地において空き地空き家を利用し「生涯活躍のまちづくり(CCRC)」と称して総合的な社会福祉施設(社会福祉法人)の建設や、賑わいの中心となる地域交流センターを建設することより前述の効果と併せて、市街地における空き地の解消を図る。

さらに、施設の老朽化に伴い運営を取りやめる予定の輪島漆器資料館(組合法人所有)を市所有博物館相当施設として再生し賑わいの創出による地域の活性化を図るとともに中心市街地における大規模な空き地の事前防止を図る。

ほかにも、複数の中学校を統合することによる統合後の中学校跡地へのバイパス整備と併せて市庁舎の移転や、郊外への移転が予定されている消防庁舎跡地や市庁舎跡地をを活用した、老朽化が著しい図書館等の移転、中学校周辺の総合運動公園内や廃校になった高校跡地への運動施設の集約等、中心市街地及びその周辺において公共不動産の有効活用による公共公益機能の集約や利便性の向上を目的とした都市機能の再編を図ります。また、海岸線にあるマリンタウンについては、観光施設や競技場などが整備されており連日多くの人々が賑わっていますが一方で、路上駐車による交通渋滞が大きな課題となっており、新たな駐車場を整備し周辺施設の利用者やイベントに訪れた人々の安全の確保を図る。

まちづくりの経緯及び現況

○まちづくりの経緯

- ・平成10年前後から、まちづくり総合支援事業、都市ルネッサンス石川都心軸整備事業(街路事業)、賑わいの道づくり事業、街なみ環境整備事業などにより各種の拠点施設の整備や拠点を結ぶ道路の修整整備などを行い、総合的な賑わいづくりが実施されている。
- ・マリンタウンプロジェクトでは、輪島港を中心とした地域において、観光交流や居住スペースのための用地が造成され、平成18年度からはまちづくり交付金により観光交流に資する施設の整備が重点的に行われてきた。

○まちづくりの現況

- ・平成23年度から27年度にかけて輪島中央地区として観光交流人口の確保や都市機能の再編を図るための整備を行っている。
- ・特に都市機能の再編については、施設の移転計画が中長期に及ぶことから2期計画の策定が求められていた。

○観光入込客数

- ・H15年度の能登空港開港に伴い観光客数は一時的に増加、その後、能登半島地震や世界的な経済不況の影響により減少傾向となっていたが、平成27年春の北陸新幹線金沢開業や連続テレビ小説「まれ」の放映開始に伴い徐々にではあるが増加に転じている。

○交流イベントの現況

- ・マリンタウンを中心として交流イベントが盛んに実施されており、交流機会の増加による賑わいの再生に期待が高まっている。

○地区内の人口の減少

- ・地区内においては少子高齢化や地区外への流出による人口の減少が著しい。

課題

- ・これまでに整備された施設の有効な利活用や交流イベントの実施により交流機会の増加を図る必要がある。
- ・市街地における回遊性や利便性の向上を図る必要がある。
- ・交流施設や防災施設等の整備により、市民間交流の場や安全安心を確保する必要がある。
- ・市民が余暇を過ごすための施設の整備により、人口の流出を抑制する必要がある。
- ・観光産業・漆器産業の低迷とともに、少子高齢化に伴う高齢者世帯の増加や空き家・空き地の増加が著しく、市街地を中心に都市機能や地域活力が低下傾向にある。

将来ビジョン(中長期)

【総合計画】

市民や観光客がふれあい、子供から高齢者までが楽しめるまちづくりを目指す。

輪島市総合計画では基本構想で、

- ・「人が集い交流が盛んな賑わいのあるまちづくり」として、1.地域間交流の推進、2.国際交流の推進、3.市内の更なる交流・連携の推進、4.交流拠点の整備、5.コミュニティ活動の支援の5項目が位置づけられている。
- ・「誰もが住みたいと思う快適なまちづくり」として、1.適正な土地利用、2.良質な住宅・宅地の供給、3.交通ネットワークの整備、4.公共交通網の整備・充実、5.ICT環境の整備、6.上下水道の整備、7.火葬場・墓地の整備、8.公園・緑地の充実の8項目が位置づけられている。

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【公共交通との連携による賑わいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一本松総合運動公園と隣接して統合中学校を始めとする各種の施設を整備することにより一体的かつ多目的な利用を可能にするとともに、市街地において空き地空き家を利用した社会福祉施設・高次都市施設や、民間による駐車場を整備することで都市機能を集約し、バスターミナルや住宅地とのアクセス性を高めることにより通学者や施設利用者の利便性の向上を図る。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心拠点誘導施設:教育文化施設(中学校) 中心拠点誘導施設:社会福祉施設(複合拠点施設) 道路(都市再構築戦略事業) 高質空間形成施設(都市再構築戦略事業) 地域生活基盤施設(駐車場) 高次都市施設(地域交流センター)
<p>【回遊性の向上による賑わいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共施設や観光施設の回遊性向上を図るため周辺道路の改築、修景整備を行う。 	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路(都市再構築戦略事業) 高質空間形成施設(都市再構築戦略事業) 道路(関連事業/社会資本整備総合交付金・基幹事業)
<p>【交流機会の増加による賑わいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地における交流機会の増加を図るため中学校や周辺道路の改築、修景整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心拠点誘導施設:教育文化施設(中学校) 道路(都市再構築戦略事業) 高質空間形成施設(都市再構築戦略事業) 道路(関連事業/社会資本整備総合交付金・基幹事業)
事業実施における特記事項	
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業計画時 施設整備内容検討時、活用時における住民参加 ・地域交流センター等、各施設の整備内容について関係する住民による検討会を行う。また、既存の組織であるまちづくり協議会やTMO等との連携を行う。 ○事業期間中 交付期間中の計画の管理について ・交付期間中において、毎年事業成果等について評価や事業の改善を行うため、事業推進に関する任意の委員会を設置する。 ○事業終了後 交付期間終了後の施設等の管理、活用 ・施設等の利活用、維持管理については、まちづくり協議会や、TMOを中心とした住民参加型で行う。 <p>【官民連携体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○輪島商工会議所と連携し観光客や高齢者への新たな交通手段としてエコカートの走行実験や自動運転の実証実験等を実施 ○市街地における住民や観光客の移動手段確保の為、既存バス会社と連携し、市街地周バス(5コース)の運営の実施 ○市の商工部局では、各種団体が市街地での賑わい創出のために行うイベントについて支援等を行う <p>上記の体制を構築することにより、地元主体の自立性の高いまちづくりの推進を図るとともに、新たなまちづくりの担い手を発掘する。</p> <p>【政策間連携体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の商工部局と連携し、商店街活性化に向け、当該取組みを進めるため、市役所内の業務を横断的に実施する体制を構築することで、地元の声、要望をよりくみ取ることを可能とし、より地元へ根付いたまちづくりの推進を図る。 <p>【事業完了後の継続性、人材育成、維持管理費の低減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市の主催のイベント時には、民間事業者が出店できるブースを設け地元特産物や観光施設のPRを連携し行う ○民間事業者と連携し、一般社団法人青年海外協力会(JOCA)を通じた青年海外協力隊経験者からの養成 	

都市再生整備計画の区域

輪島中央地区(第2期)(石川県輪島市)	面積	150 ha	区域	都市再生整備計画区域
---------------------	----	--------	----	------------

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。

